

令和6年度

美馬市立江原中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問やICTの効果的な活用により、生徒の思考を深める授業の実践
- 深めた思考を認め合い、話し合い、学び合う場面がある授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
西岡政希	校長 河野昭一 第1学年主任 森川真由美 教頭 藤田加容 第2学年主任 武岡美智 教務 三宅央子 第3学年主任 真鍋友介

校長

河野 昭一

【各校の取組状況の把握について】

学び合いウィーク(教員同士の授業見学等)により、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は落ち着いて、真面目に取り組んでいる。 ○与えられた課題に一生懸命取り組み、提出物を必ず提出するよう心がけている。 ●学習習慣が身についておらず、基礎・基本の知識・技能を習得するのに課題がある。	・授業の目標を理解して見通しをもって学び、学習内容をノート等で振り返ることができる。 ・家庭学習で自主勉強ノート等を有効に活用し、学力の確実な定着につながる方法を知る。 ・基礎・基本内容の小テストや学習支援アプリの単元テスト等にて正答率80%以上を達成する。	・授業の目標や流れを黒板に可視化し、具体的に提示する。 ・ICTを効果的に活用することで、生徒の理解を深める授業づくりに努める。 ・自主勉強ノートを有効に活用できるように、個別にノート指導を行う。 ・定着度を計るテスト等を実施し、全員が目標を達成できるよう個別の支援をする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒がグループ学習に協力的で、教え合うことができる。 ●根拠を示しながら、筋道立てて説明することが苦手な生徒が多い。 ●学んだことを生かし、課題解決しようとする意欲が十分とは言えない。	・言語活動を通して、主体的に学習を進めていくことができる。 ・自分の考えを、自分の言葉で伝えることができる。 ・表現力があり、相手に分かりやすく伝えることができる。 ・学んだことや知識・技能を活用して、自らの考えを進めていくことができる。	・授業の目標に合わせた学習形態(ペア学習・グループ学習等)を積極的に取り入れる。 ・パワーポイント等を使った生徒による発表で、表現の方法を明示し、自分の言葉で伝えられるように支援をする。 ・既習事項とつながりのある課題設定をする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝学習ではほとんどの生徒がセミナーや読書に集中して取り組んでいる。 ●難しい問題に対して、諦めてしまう生徒が多い。 ●自ら学ぼうとする意欲が乏しく、教員の指示がなければ行動できない生徒が多い。	・自ら学ぶ意識をもち、学ぶ喜びを実感し、目標達成に向けて努力できる。 ・自ら課題を発見し、課題の解決に向けて主体的に取り組む、自分の力で答えを導き出そうと努力できる。	・「家庭学習の友」の毎月の反省と目標を記入する時間を取り入れ、生徒が自分の学習の取組を可視化し、振り返ることができるようにする。 ・生徒の実態に応じて学習課題を設定し、自らの課題発見と解決の振り返りのサイクルから、主体的・探求的に取り組むことができるようにする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

